

第8回 寒河江市立学校のあり方検討委員会 議事録

日 時 令和3年7月2日(金) 午後3:00～

終了 午後5:00

会 場 ハートフルセンター 多目的ホール

1 開 会

2 教育長あいさつ

3 委員長あいさつ

みなさま、こんにちは。お忙しい中お集まりいただき、改めて感謝申し上げます。今教育長さんからありましたとおりですので、繰り返し述べることは避けたいと思っておりますけれども、今日の論点整理を受けて、文章化をしていかなければならない。主に事務局さんにその仕事をお任せすることになるかと思っておりますけれども、そのための今日は論点整理であると。そして12月の答申に向けて、さらに整理をしていくという風な段階でございます。大詰めでございます。今も教育長さんからありましたとおり、いろいろお立場があると思っておりますが、決定権については教育委員会なり市当局かと思っておりますので、その最終決断をするのに参考になる答申という風にさせていただければと思います。今日の論点整理で、どうしても1つにまとまるということは無いかと思います。過日山形新聞の方にも、2案か数案だろうということで書いていただきました。おそらく、そういう形になるかと思っておりますけれども、今日はそういうことで話し合いを煮詰めていってもらえればと思います。今日は、そういう論点整理ですので、委員の方々複数回のご発言よろしくお祈りいたします。1回ではなくて、3回程度できればいいんですけど。時間はおおよそ2時間。最終的には5時までには終わりたいと思っておりますので、その間にご意見を述べていただければと思います。では、早速ですけれどもこれから論点整理の話し合いに進めさせていただきます。よろしくお祈りいたします。

4 事務局から資料の説明(学校教育課長)

本日の資料説明ですけれども、先ほど教育長の方から申しあげた内容に尽きるかと思っております。繰り返しになりますが、12月の答申に向けた作業ということで、これまでの委員会の検討内容につきまして、事務局でまとめさせていただいております。参考としまして、文部科学省の手引きで補足説明とか、そういったことも準備させていただいております。それから具体的に統合はなかったんですけれども、5ページの国の資料等で付加すべきと思われる項目ということで、今後学校のあり方で、施設はこんなものがないなあという風なことも考慮されますので、こちらの方でそういった項目についても準備させていただきました。そういったことで、15の論点について準備させていただきましたので、委員長の進行の方でよろしくお祈りしたいと思います。

5 協 議

○委員長

では早速、話し合いを進めていきたいと思います。なおこの部屋は非常にオープンになっていて、音がエコー起こしていますね。はっきり聞き取れないところがあるかと思いますが。私も早口ですけれども、できるだけゆっくりと発言の時にご留意いただければありがたいかなと思います。

それで、今回論点が15あります。それぞれについてやっていくと、1分間だとしても15分かかりますので、フリー発言の中でどの論点に関しての発言なのか、一番の自分が考えている所ご発言いただければという風に思います。これまで、中学校数を何校にする、小学校数を何校にするというところだけで、話してきたわけですけれども、できるだけ多面にわたって話をすることが最終的に答申に盛り込まれなければならないのではないかと思います。最後に、ここで話し合っただけで無いうようなことで答申ができてしまっはまずいので、できるだけ広範囲にわたって、もう一度お考えを基にして出していただければと思います。かといっても15ありますので、どこからでもいいとなると、なかなか難しいので、論点1, 2, 3についてどういう風に皆様方お考えか、そして4, 5, 6、次に7, 8, 9というふうに5パーツに分けて、話し合いを進めていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。進め方についてご意見ございましたら、どうぞ、お出しください。よろしいでしょうか。できましたら、各委員さん複数回の発言をよろしくお願いしたということ、これをもう一度お願いしたいと思います。

それでは早速、論点1の「小学校における複式学級」、論点2の「小学校における1学級の児童数」、論点3の「小学校における各学年の学級数」、ここまでの中でご意見ご発言をよろしくお願いしたと思いますが。

○委員

よろしく願いします。論点1について、複式学級の解消ということですが、ここに①から⑤まで、それぞれ複式の制約とか心配なことが書いてあるんですけど、これまで西村山の複式学級を、特に小規模学校は「複式学級こそ、教育の原点だ」みたいにしてやってきたというか、がんばってきたという思いがある訳ですが、やはり、大変ですね。楽ではないです。2学級または異学年、例えば2年と4年とか、かならず隣り合う学年だけでなく、とびとびの複式なんかある場合がありますので、そうなるますます大変です。家庭科がある学年とない学年とか、生活科と理科、社会のある学年となると本当に大変な訳です。ということで、複式学級を解消することは、早めにしてもらった方が私としてはいいのではないかとというのが論点1です。

論点2につきましては、「複式学級にならない限りは統合すべきでない」と案2にあるんですが、私はそれには疑問で、計画的に学校統合を進めていかなければならないという観点からすると、やはり何年か経ってから「やっぱり統合しないとならない」なんて話になると、またこれも大変なので、やっぱり将来を見据えた計画的な統廃合、それから学校づくりをやっていくという観点で、われわれ地区民もそうですし、保護者の方にもきちんと説明をして、「こういった形で統廃合するんだ」ということで、しっかり進めていくべきだろうなということで、私は案1が良いのではないかと個人的には思います。

○委員長

ありがとうございました。今のご意見、複式学級に関しては、やはりこの案にあるような形で進めるべきであろうというご意見。そしてそれも計画的に行っていくべきであろうということですので、論点2については案1に賛同するというようなことでもあります。今のようなご発言で、次々のご意見をお伺いしたいと思います。

それでは、時間も限られていますので、次の方につないでもらえますか。

○委員

3まで含めてということだと、1と2は私も同じ意見で、「統合していく」ということで問題ないですが、論点3の部分で、私は案2の「複数学級がなくとも、統合すべきでない」ということを残しておきたいなと思います。統合はやってもいいんですが、西部の学区は、この状態になるんですね、1学年1学級に。これはやむを得ないのかなと。私の学校なんかは、私が卒業してからずっと1学級だと思うんですよ。それで何も問題ないのかなと思うんですけど、周りを見た時に、それは統合をしてもいいんですけど、ここは1学級でもやむを得ないのかなと。ここだけは、2案を残しておきたいなというところです。

○委員長

ありがとうございました。1学級でも継続をというようなご意見ですね。

○委員

今お話出しましたけれども、1と2については私も同じ意見です。それから、委員から論点3について話がありましたけれども、ちょっとこの表現が、まあ極端とは言いませんけれども、AかBかと言われると悩ましい感じがします。必ずしもここは、こだわらなくていいのかなという感じがします。あともう一つ、これは全体的な話にもなるんですが、やはり地域の問題というのも大きく、特に我々のような世代からすれば、地域性もありますし、課題として大きくあるんですけども、まあそれはそれとして、大事にしながらも、やはり子どもの教育というものを一番大事に考えていただいて、その上で地域のことも配慮していただくような論調といいますか、にしていいただければ大変ありがたいなと思います。以上です。

○委員長

まず置くべきは子どもたちであるということだと思います。そして地域だ、というふうなことをベースとしたご意見でございました。ありがとうございました。

○委員

私の意見としても、今お三方からあった意見と似たようなものになるんですけど、論点3について、今話がありました、やはりコミュニティというところの考えた方としては、必要なかなということもあるのですが、やはり子どもたちのことを考えると、通常というか、教育山形「さんさん」プランということでの標準の人数での教育というのが望ましいのかなというのが私の意見としてあります。なので、やはり子どもの人数が少ない所の地域の方たちの考えは、もち

ろん分かるんですけど、それを言い続けてしまえば、いつまでもこの状況になってしまうのではないかな、というのが私の考えです。以上です。

○委員長

ありがとうございます。望ましい学級、児童数というのがあるのではないかと。それが「さんさん」プランとして提示されている限りは、それをベストとすべきであろう、というようなご意見だったと思います。ありがとうございました。

○委員

私も論点1、2に関しては、皆様方と同じような意見になりまして、やはり論点3ですね、1学年の学級数が2から3以上になるように統合を進めるというようなことで、やはりどうしても寒河江市西部の学校等は、今1クラスというような形ですけども、「さんさん」プランにあるように21人から33人くらいで、学年をやってしまうと2から3くらいになってしまうのか、それともそれより多くなってしまうのか、というところがあると思うのですが、そのバランスのいいところで調整できれば一番いいのかなと思います。やはり皆様方からあったとおり、地域コミュニティの件もあるんですけども、やはり実際のところ西の方は人口がすごく減っているという現状もありますので、やはり前に進めるためには比較的早い段階で統合が必要なのかなと、個人的には考えます。以上です。

○委員長

ありがとうございます。やはり地域によって児童数の格差というものを、一律にするという難しさはある訳ですけども、やはりいつまでもそれで足踏みしてはいけないということかと思えます。やはり全体を考えた時に、この論点3については、やはりある程度、一步前進させるべきである、というようなお考えだと思います。ありがとうございます。

○委員

私も今までお話しいただいた方と同じです。論点1に関しては、複式学級は出来れば解消した方がいいかなと考えていますし、学級も少ないよりは、今山形県で推奨している「さんさん」プランの人数で授業が行えるように進めるべきなのかなという風に考えています。論点3に関しては、今、お話がいろいろあるのと同様なのかもしれません、地域コミュニティとしての問題は確かにあるとは思いますが、この文部科学省の手引きで見ると、学級数が多い所での利点も考えとしてあるのかなと。今の学習室自体が、チームティーチングですとか、自分たちで課題を見つけて学習に結び付けていく、というところを考えると、やはり様々な人たちの中で「じゃあ、自分はどうやって行くのか、共同で課題にどう取り組んでいくのか」ということを、学ぶ機会としては、1学年1クラスだけではない、様々な多様性があるということを学ばせられる機会になるのかなと思うので、そういった意味でもできれば、人数が少しでも多い中で多様性と言うものを学ばせられる機会を得られたらいいのかな、という風に考えます。

○委員長

子どもたちには、できるだけ多様な人間関係に触れさせたいし、そのためには学級の人数なり、学級数も確保すべきである、というお考えとお聞きしました。ありがとうございました。

○委員

私も論点1については、それでいいかなと思います。論点2については、ちょっとよく分からないんですけども、論点1を考えた場合に、論点2の第1案になるのかなという風に思っていました。21から33で1学級ということであれば、それでいいと私も思います。論点3ですが、私は案2の方を考えています。やはり子どもが多いということは、それだけ目をかけにくいということになります。どうしても。それは少なからずそうなります。指導がしにくくなるというか、指導の幅というか教員の力量が問われるということは、大きくあります。1学級でも複式でも、それで何ら不都合がない。子どもの成長にとっては、むしろそちらの方がいいんじゃないかと思うこともありました。先ほどおっしゃったように、思っています。あと地域コミュニティというのは、私はかかせないと思っていて、今回の幸生小が統合したというのだから、なかなか統合できなかったという現状があるんじゃないかなと私は思っています。それから考えると、簡単に2、3クラスになるように統合を進めるとするのは、無理なのではないかなという風に考えています。以上です。

○委員長

ありがとうございます。やはり複式というのは「悪」じゃないんですよね。おっしゃる通り。でもどちらかというと単式がノーマルで、複式がそうではない方に入るのかなという考えが多いんですけども、そんな意味からすると論点1にはご理解いただけただけども、地域コミュニティの問題についてはなかなか複雑な問題もあるのでその辺はもう少し幅広く捉えるべきであるというお考えかと思えます。

○委員

よろしく申し上げます。私も論点1、論点2に関しては皆様と同じように、論点2については案1のほうでいいんじゃないかと思っています。論点3につきましては、クラス替えというところが子どもたちの生活の中で人と人の関わりで、例えばいじめとかこの人と合わないということがクラスの中であった時に、逃げ場として「来年もクラス替えがあるからちょっと離れることができる」という気持ちがあるだけで、子どもや親にとってもわりと余裕が生まれるのではないかと。うちの子ももそうだったんですけども、やはり同じ学年に1クラスしかなかった方の親御さんとお話する機会もあったんですけども、すごく6年間大変だったというお話も聞いていますので、委員がおっしゃるように何もなかったというわけではなく、表面化しなかつただけじゃないかという気もするので、いろんな問題を抱えた子どもにとっては逃げ場が必要なのかなという気もいたします。

○委員長

逃げ場ということですけども、やっぱりその辺で選択が、というか固定したものであってはな

らないだろうというご意見かと思っておりますので、できるだけ多くの学級なり子どもたちと接せられる機会を設けるべきだというご意見かと思っております。ありがとうございました。

○委員

論点1、2、3を通して数の問題だと思うんですけど、私の考えとしては全て統合を進めて一つ一つの大きな塊を作るという風にしたらいいんじゃないかと思っています。その理由としては、根源的な心配として寒河江市がどんどん過疎化するんじゃないかという心配があって、地域コミュニティも大切だとは思いますが、あまりにも小さな塊がたくさんあって地域密着になっていると外から入って来る人が入りにくいんじゃないかとか人口減の方が心配で、まずそのためにもオープンな感じで大きな塊が必要じゃないかと思いました。以上です。

○委員長

ありがとうございます。やはり子どもの数、減少、少子化という問題が将来にどう繋がってくるかということですね。いちばん懸念されるのは。

○委員

私も論点1に関しましては案の通り、論点2に関しては案1でいいと思っています。論点3については案1の方がいいのかなと思っています。文科省の手引きを見させていただいてということと、あと先ほど委員がおっしゃっていた意見に賛成です。昔であればある程度子どもたちの関係性が目に見えていたんですが、今SNSの影響で子どもたちが表に見える以外の関係性がSNS上で作られているという状況があります。昔だと少しでもおかしければ保護者や先生が介入して関係性の修復やアドバイスをできましたが、どうにもならない状態にまでなってはじめて判明するということが出てきた場合に、委員がおっしゃったようにクラスを分けるという対策で子どもたちが学校に行きやすくなるということがあるかと思っておりますので、そういう意味でも複数のクラスがあった方が学校に行きやすい環境を作るという意味でもいいんじゃないかと思っています。

○委員長

ありがとうございます。住みやすいクラスというのはある程度規模のある学校ということだと思います。

○委員

15の論点ということで事務局さんからいただいて改めて考えたんですが、子どもたちにとって一番いいことはどういうことだろうとまず考えました。良い環境で落ち着いて学べる、先生方も同じだろうと思った時に、寒河江市のマスタープランといますか、そういう考え方もある程度考えて答申に向けていく必要があるかなと思ってマスタープランの方も聞きました。教育のことについてはあまり詳しい記述がなくて、市のエリア分けといますか、例えば陵西などの西部地区については、伝統的な慈恩寺とか良好な農地があってこういうところを大事にしていこうんだということ。工業団地があるところ、町場の方とかそれぞれ地域に分かれていたんですが、それを考えた時に、陵西学区に学校がなくなっていくと緑を保全する田畑を守る人もだんだん少なく

なっていくのかなど。統合して規模を大きくして複数のクラスでのびのびと色々な人と触れあって学ぶ環境というのも大事だと思うんですが、ある程度、論点3にあるようにコミュニティの中核になるということを加味した形で論点3の第2案は残していくべきなのかなど考えました。論点1、論点2については皆さんから出されている意見と私も同じ意見であります。

○委員長

ありがとうございます。地域コミュニティの観点からのご意見でございました。

○委員

皆さんがおっしゃっていたことと私もほぼ同じなので、全体的なことも含めてよろしいでしょうか。一回目から話をしてきた中で大きい学校と中規模学校、小さい学校のどの学校にもいい所と悪い所があって、またはどの学校にも色々な問題点があるということで、どの規模の学校がいいとか悪いとか決められるものではないはずですが。そんな中で今まで皆さんからお話があった通り、それぞれ皆さんがその地域に住まわれて、その地域や学校をよく見ている、大きい学校、小さい学校なりのご発言をされていると思うんですけど、答申を出すにあたって基本的にどの視点からいくのかという部分は、たぶんこれから子どもたちにどういう教育をしていくのかというところから話をしていけないと、どっちもいい所があるという話しか出てこないと思う。なので、寒河江市の児童・生徒たちに、小さい学校にも大きい学校にもいい所があるし、また複数の学級があるのも一学級もいいという風なことで今までのように学校を創り上げていくのか、それとも教育体制または指導体制、そして生活環境なども含めて、ある程度の規模の学校で同じような学校でまずこの学校でも全てにおいてそれなりの教育できる環境を作ってあげるのか、という部分で私が考えなければならないのかなと思っていました。やはり、どっちもいいという話ではどっちもできるわけがないので、これから寒河江市の子どもたちをどういう風に教育して、生活環境も含めてどう成長させて大人にさせていくのか、またはどういう教育を子どもたちにしていきたいのかをお聞きしたいと思います。

○委員長

そうですね。本当はそこに帰結すべきところかとは思いますが、答申を作るまでにはそこまでの聞く時間もないのかなという感じもします。ご意見として大切なところかなと思っております。

○委員

前回と前々回が出席していなくて浦島太郎状態ですが、今回は論点整理の段階だということで戸惑っているんですが、今皆さんのご意見を聞いて自分なりの考えを述べさせてもらいます。これからの学校のあり方と話も出ましたけれども、論点に沿って言うならば論点3が大きく分かれている所ではあるのですが、案1も案2も考え方がどうあるか。結局は案1であっても地域コミュニティの中核であることはできるはずですが。別に小さい学校だけが地域コミュニティの中核であるわけではなくて、その規模に応じてどういうふうに学校経営を進めていくかによって、じゅうぶん地域コミュニティの中核になれる。そのあたりを校長先生を主体にしてどう創っていく

かということで考えていくのであるならば、別に案1でも案2でもいいんですけども、将来の寒河江市の少子高齢化を考えた場合に、案2の場合だと単学級しかない、もしかしたらまもなくすぐ複式学級になる学校も学年も出てくる可能性も高いわけですよ。そうするとある程度の規模の学校にしておくことがこれから加速化する少子高齢化に対応していくには、案1のほうが現実的な気がします。案2の方ですと少子高齢化の中で子どもたちが少なくなっていくって地域に負担が大きくなると。子ども以外の地域コミュニティの中核ではあるんですけども、高齢化している地域の負担が大きくなるのかなと。それをどうとらえていくのが心配な所があるかと思えます。資料の中で案2のほうにはこれまでの会議に話題となったこと、手引きにおける課題を見ると案2は「困難」という言葉がたくさん出てきているんですよ。それを見ると案2を、というのは厳しいことがたくさん待ち受けているのかなと。資料を見た感じでは案1のクラス替えができる規模に統合を進めておかないと、すぐに立ち行かなくなってしまう可能性があるのかなと。ということを考えたところですが、やっぱり地域コミュニティの中核ということは、それはやっぱり学校の経営が大きく関わってくる問題であるのかなと感じたところでした。

○委員長

ありがとうございます。複雑な問題が絡んできているのかなと思います。

○委員

委員の意見に賛同するところがあります。結局何を指すのかということ。もちろん、人が減っているからその対応として動いてきているわけですが、その中で何を一番に目指して統合をしていくかが大きな問題になるのかなと思います。例えば、先ほども二つ意見がありました。小規模の学校はそのまま関係が持ち上がってしまうということがあるので、いじめや対人関係の困難があった時に解消が難しい点が出てくる。それが大規模の学校になると目が届かないのではないかと問題が出てくる。そこを小規模の学校で目を配ってもらった方が良いのではないかと。そうしたところで論点3の案2で可能性として考えられるのは、小規模特認校というところで規模が大きくなって学校を残す、もしくは維持をしていくと。それで、他の学区から困難を抱えた子どもを受け入れてもらう。また丁寧にもてもらえるようになる。そういった事はもちろん現在も行っているが、今後統合が進んでいく中で小規模特認校の位置付けは変わってくるのではないかと思います。何のためかという、多様な教育・学習を確保するため。多様性のひとつの中に小規模特認校があるんだろうなと。今までの幸生そして今は醍醐だそうですが、それが統合が進んだ中で小規模特認校の位置付けが変わってくるのではないかと思いますので、そのこともひとつ検討の観点の中に入れておいていただければと思います。

○委員長

ありがとうございます。

○委員

学校の再編については、基本的には小規模によるマイナス面、弊害を解消することが布石としてあると思うので、そういう意味ではどの観点についても人数・学級数も複数あるという方向に

もっていくべきではないかと思っています。ただその際にも、単なる数合わせではなく地域の特徴などを十分配慮しながらそういう方向にもっていくべきではないかと思います。

○委員長

最後に、委員お願いします。

○委員

皆さんの意見を聞かせていただいて、どの意見もほんとうにその通りだと思っています。ただ、今委員からありましたように、学校というのはいろんな規模の学校があつていいんじゃないかという考え方です。大きい学校もいいですし、小さい学校でもそこでしかできない教育ができるんじゃないかというふうに思っています。

ただ小学生は地域の協力がないと、特にこのあたりの地域では協力がないと育っていかないと感じていますので、地域を基本にして統合も進めますが、あまり広範囲にならない規模の学校を目指したいなと思っていますところでは。

○委員長

これまで皆様のご意見全員からお聞きしましたが、論点1、2、3に関しまして、論点1はその通りだとしても論点2、3に関しましては、多数決で決める訳にはいきませんので、意見として案1、案2に併記していく必要があると思います。私としては「統合すべきではない」という強い文言でよいのか、この辺りをもう少し表現を変えることによって、この両論も意見として成立するのではないかと感じています。皆様から貴重な意見をお伺いしました。

論点3まででもうすでに40分を経過しています。この調子でいくと一晩かかってしまいそうなので、論点4、5、6について論点が二つずつありますので、皆様からしっかりご意見を頂戴したいと思います。論点7以降につきましては、総括してお聞きするように進め方を変えていきたいと思っています。大変申し訳ございません。論点4、5、6に関して小学校の学区再編、統合、そして中学校の校数、一番メインとなるところです。あえて言えば、論点7まで含めてここでお聞きしたほうがいいのかと思います。また変更して申し訳ないのですが、論点4、5、6、7までに関して皆様からご意見をお聞きしたいと思いますが、時間の関係もありますので手短かにお願いしたいと思います。進め方としては先程と逆の順番でいきたいと思っています。

○委員

論点4は、入口として案2からいって最終的には案1になる可能性もあるという部分が地域の皆様の気持ちもありますので、賛同を得なければなかなか再編は難しい部分があると思います。私としては案2で行きたいところですが、住民感情も考えると案2から入って行って最終的に案1になる可能性もあるのかなと思っています。

論点5については、案2で、通学なども含めて、中学校をまたいでも統合も考えていったほうがよいと考えています。

論点6については、中学校は一校が望ましいと考えております。

論点7の小学校の配置、陵西中学校区に学校が一つもないとなると、学校がないことによる地

域コミュニティの崩壊というのは、本当にあるのかなと思ってはいるんです。なので、学校編成をするにあたってその部分も考えた場合に、寒河江市全体を考えての配置を考えなければならぬと思います。

○委員長

ありがとうございます。

○委員

論点4につきまして、学区を再編するのは難しいとは思いますが、課題としては併記するようなかたちで問題提起する必要があるのかなと思います。どちらともいえない状況です。

論点5について論点7にも関連しますけれども、ある程度の統合はやむを得ないと思います。場合によっては中学校区をまたいでの統合も将来的には避けられないという思いもあります。ただその時に、中心部の方にコンパクトシティとして集約するというのであればやむを得ないかもしれませんが、そうすることによる弊害も相当出てくるのかなと思います。地域の活力、良さがなくなっていくのかなという心配があります。委員がおっしゃったように統合するのはよいが配置は慎重に考える必要があると思っています。

○委員

論点4、5が関連していて、論点6が別であるのかなと感じています。まず論点6の案1にするのであれば論点4、5の学区関係なく統合できるんじゃないかと思っています。論点6の案2にするのであれば今の学区を維持するのが望ましいのかなと思っています。私としては、論点6の案1が望ましいと考えていたんですが、子どもたちの数をみていきますと令和13年付近でもそこまで減少するわけではないし、その後令和22、23年までをみても、こちらはある程度期待値もあるのかもしれませんがそこまで大きく減少することはないということを考えると、二校体制でもいいのではないかと。地域の学校を極力残すという観点で考えれば、二校体制でもいいのかなと考えを改めてきたところであります。

論点7の部分ですが、委員のほうからもありましたが、市の考えとしてのコンパクトシティを推進するという方向性であれば、こういった形もやむを得ないのかなとも思うんですが、ただ統合して廃校になってしまった学校を、子どもたちがゆっくりと遊べる場だということに置き換えてゆっくり子育てができる環境であるという地域をつくるという考えに立てば、そういった環境を求めて移住をしてきていただいている方々に対するPRということを考えても論点7の部分で、無くなったからといって必ず過疎化が進むということには繋がらないのではないかと。やり方次第である程度解決できる部分があるんじゃないかと思っています。

○委員長

関連性がありますね、中学校の配置と小学校の考えというのがありますので。やはりこれはどちらをとるかということにはなかなか難しい所があるかと思っています。

○委員

論点4は案2で、論点6も案2の二校体制を考えました。論点5と7が関連しているかと思っただんですけども、陵西地区が過疎になってしまうかなと思って。やむを得ないんだけど、そこに例えば中学校をつくるとか、小学校は無くなるけど中学校は出来るというふうな、陵東学区から引っ張ってくるような形で、どんな反対があるか分からないけど何かしら人を集めるプランがあってもいいのかなと思いました。いろいろな問題をそれぞれはらんでいると思いますが、数合わせだといわれてしまうかもしれませんが合理的な区別、分けというのがあるんじゃないかと思いました。最後に大きい学校も小さい学校も良い所悪い所があるとしたら、学校が統合されたとしても同じように良い所悪い所が出てくるので、どうなってもいいふうになるんじゃないかと思っています。

○委員

先に論点7から申しますと、委員からありましたように中学校を陵西地区に一つ作るのも一つの案なのかなと思っています。中学生になると考え方もある程度しっかりしてくるので、汽車通もできるのではないかなという考えもあります。あと自転車通学である程度距離があっても中学生なら可能なのではないかなと思います。

論点6だと、税金で学校をつくるので、簡単に何校も建てられるわけではないと思うので、中学校は一校にして、今後の少子化に対して、後からまた学校をつくったり改築したりということではなく、陵西地区で広い土地を確保できるのであれば、人数に合わせて広いグラウンドや体育館も可能なのではないかなと考えています。

それに併せまして、こういった学校再編について考える機会は、そうあるわけではないので、論点4、論点5に関してもこれをきっかけにしっかり考えていくのも一つの案ではないかなと思います。学区の再編の検討ですとか、学区をまたいでの統合も考えた方がいいのではないかなという気もしますが、委員のおっしゃったように地域の皆様の考えもあると思いますので、案1になってもやむを得ないという気もいたします。

○委員長

ありがとうございます。なかなか微妙な問題をたくさん抱えていますが、あちらをたてるところもたたずというところもあるかなと思いますが、いまおっしゃったように、きっかけとして提案していくことも重要なかなと思っています。ありがとうございます。

○委員

論点4については分割することはしないというふうにした方がいいのかなと思っています。本楯地区が中部小学校から寒河江小へという話も以前出たことがあります。それでも叶わなかったという現実があります。みずき団地の子どもたちが寒河江小に行くと。間にはさまれているんですよね。という現実があるということを踏まえると、地域の理解を得るのは非常に難しいかなと思うので分割しない方がいいと思います。小学校の統合については案1です。中学校区内での統合が望ましいというふうに思います。そういうふうになるならばということですが。

論点6ですが、中学校については、二校にと考えています。先ほどと同じように一校だと市民

の理解を得るのが難しいと思っています。いろいろな方の話を聞いてきましたけれど、それで子どもを育てられるのか、教育は大丈夫なのかというふうに思っています。というのは、人数からみても先ほど委員がおっしゃったように、人数も令和22年で、陵西と陵東が統合して450、陵南が514という数が居るわけですのでそのままいいと。二校体制でいいと考えています。論点7については、二校を改築、新設すると。陵南中は改築、陵西中と陵東中は真ん中につくるというような案を考えていかないと陵西学区に学校がなくなっていくという話が出てくる。それは小学校の場合でもあり得るわけです。統合という話になれば、小学校の場合も醍醐と一緒にあったりしてそういう話が出てくる。設備については改築が必要なんですけど中学校の建設は二校です。小学校は我慢してもらおうというふうに考えています。

○委員長

ありがとうございます。これまでの経過、現実問題からして学区というものについてなかなか難しいだろうというご意見ですね。そういう面からいくとこの辺りも統一が難しい意見かなと思います。ありがとうございます。

○委員

論点4に関しては、確かに住民感情などもあるので現在の学区を合わせることはあっても分割はなかなか難しいのではないかと考えます。

論点5については、先ほども話があったように中学校の校数によって、実際に今の現中学区への統合がどうという話になると思うので、論点6についての話をさせていただくと、三校を二校にするのかとかどちらがいいのか私自身まだ分からなくて、三校にしたらしたで今後寒河江市がどのように人数が減っていくかシミュレーションいただきましたが、そのシミュレーションの後にもまた人口減になるのであれば、やはり二校、一校にするというよりは、もう二校にしてしまったほうがいいのかと思う反面、人数が多すぎるというのが正直あるのかなというふうに考えると、ここは案1か案2かを選択することができませんでした。小中学校の配置については、寒河江市自身の町づくりを今後どうしていくのかということにかかってもくるのかなと思っていて、宅地計画をどこに進めるかによっても学校の配置が変わってきたりすることもあるので、若い人たちが市の中心にといいことであれば、先ほども意見ありましたが中心街に学校を配置すればそこが活性化されるのかどうかというところもあるのかなと考えました。

○委員長

ありがとうございます。やはり市全体のこれからの構想とからめながらというご意見かと思っています。ありがとうございました。

○委員

論点4につきましては、既存の学区を合わせることはあっても分割することはなかなか厳しいのではないかと思います。

論点5につきましては案2のほうで、陵西中学区内の小学校を統合しても一学級にしかならないので、学区をまたいでの統合もやむを得ないのかなと思います。長期的に考えると、児童数が

減っていつているので学区をまたいで統合することがいいのかなと個人的に考えました。

論点6については、一校にするか二校にするかというところで悩ましい所ではあるのですが、人が多すぎるというのも目が行き届かなくなってしまうのではないかと不安と、一校にした際に皆様からあったように、寒河江市の中心部につくるのか、それとも陵西学区に中学校をつくるのかどうかというところで、町の活性化というか、過疎化ですよ。学校が完全になくなってしまった場合に、人がどんどん離れていって過疎化してしまうのではないかと不安もあるということで、できれば中学校を二校にして一校を陵西学区にということを検討していただければすごくいいのかなと思いました。論点7も含めてそのような意見です。

○委員長

中学校というのはなかなか。この前まで一校案だったのが、考えてみると二校案の方にだんだんとシフトしてきているのも現実かなと思います。ありがとうございます。

○委員

私も論点4については学区を合わせることはあっても分割することはしないというところではないかと思っていたのですが、全ての論点に言えることですが、考えれば考えるほど何がいいのかが実際のところの私の意見ですが、どちらにしても良い点・悪い点が出てくるのかなというところがありまして、実際に今自分の意見として出すことが難しいような状況です。

○委員長

とても大事なところかと思えます。両方課題があるんです。良さもあるし。ありがとうございます。

○委員

たくさん意見が出ましたので結論だけ、私の考えを申し上げます。

論点4については、分割するのは大変困難といえますか、ここは人数を同じにする必要はないでしょうから、現在の形を基本として組み合わせるほうが円滑に進むんじゃないかと思えます。

論点5については、皆様からありましたが、案2でやむを得ないという表現をつかっていますので、限定的に結論を出すと縛ってしまうので、表現を工夫して頂いて2の方がいいと思えます。

論点6は、中学校の校数についてはいろいろなご意見ありましたがそれぞれ一長一短といえますか、なるほどという話ですが、私は生徒数の推移などを見させていただきましたが、できれば二校体制にしていきたいなと思えます。ただこれを見ますと、学校に対する投資額がこの10年15年で非常に多額になります。そのあたりをどうしていくのかもたいへん大きな課題となってくるので二校がベストというよりもベターなのかなという考え方でございます。

論点7ですが、小学校の配置についてはこの案に賛成です。

○委員長

ありがとうございます。

○委員

論点4については、案1の方が現実的かもしれませんが、前から難しかったということがあっても時代が変わっています。年数が経っています。そこに住んでいる方々がどう考えるかということも含めて案2も考えて結果的に案1になるならやむを得ないのかなと思っています。

論点5は、前回あった案1、2、3という中でも陵西学区だけ一回統合して、三校統合して、さらに統合ということがありました。先ほどの論点3の話も私はここですけど、いったんクラスずつでも陵西だけ統合して何年かおいて学区をまたいで統合という考えがあったもので、私は一学年一クラスもあり得るなど。さらにあのシミュレーションの数字は、醍醐は今、50人もいないのに80人もいるようなシミュレーションですから、20年ごろに170人なんてあり得なくて140人あたりになるはずなので、もう一回統合があるものと思って考えております。だからここは案2でいいです。

論点6は、寒河江市の懐がどうなのか分かりませんが、市役所もぼろ、体育館もぼろ、みんなぼろ。学校だけにお金をかけるわけにはいかないのかなと考えたら、一つでいいのかなと思ったりしています。

論点7は、飛躍しているのかなと思うんですけど、先ほど言ったように小学校を一回陵西学区だけ統合すれば、何年かは陵西学区で学校はなくなるんですね。先走った話になっていますけど、いったん有って無くなるのは、やむを得ないのかなと思います。陵西学区に新しい学校をつくろうと話していただきましたが、場所がないんじゃないかと思います。電車を通えるところを探すととならないのかな。前からほぼほぼ出ていたチェリーランドの向いとかあの境目あたりだったら、みなさんがさくらんぼ畑を手放してくればいい場所があるんですけど。その他で陵西学区のど真ん中には難しいのかなと思います。どこかに統合になるのであればやむを得ないのかなと思います。

○委員長

段階的統合案というのも一つの案として、入れられるかということもありますけれども、その辺りも検討すべきであろうと。ありがとうございました。

○委員

論点4につきましては、わたしも分割してほしくないという気持ちと、難しいのではないかといいところがあります。案2は、「基本とする」とありますので、それを優先してもらって、それでもやむを得ないという場合がきたら検討する、ということですので、それらを含めまして、案2でいいのかなと思います。ただ分割は基本的にはしないという意味で案2に賛成という意見です。

論点5につきましては、難しいところですが、陵西中学校がどこまで続くかということが今後の統合、二段階の統合という話も出ていますが、財政的な面もありますし、少し遠くの将来を見据えて説得していくべきかと。ほんとうにやむを得ない場合には、そういう形で進めていくのが適当かなと思います。

論点6につきましては、中学校の校数につきましては、前から二校体制がいいというのが私の持論です。一方で、一校の中で切磋琢磨することはあると思うんですが、物理的環境が多少離

れることによって、いい意味でのライバル意識が各中学校間にも出るのではないかという個人的な考えです。実際問題として、人数が多いというお話がでています。前にいただいた児童・生徒数を見ますと、三校が一校になった場合は平均して今は1100人、令和12年では900人程になります。それを一学年にした場合は330人。それを「さんさん」プランにした場合は10クラスできるんですね。一学年10クラス、二学年10クラス、三学年10クラス。ちょっとこれは大すぎるんじゃないでしょうか。一つの学級を少なくしようという流れで進んでいて、そこに一学級50人というわけにはいかないのですから。そう考えるとあまりにも多すぎる。調整するのも大変じゃないかと。運動場を使う、プールを使う、特別教室を使うという場合に、10クラスでは先生が大変になると思っているので。先ほどのライバル意識を持つ、いい意味での競争意識を持つということと、人数的な配慮を考えるとやっぱり二校。場所はどこかという、委員にあったように、陵西学区には無いということでしたので、財政面を考慮していちばん適当なところを住民とも話し合い、納得する場所にもう一校をつくって二校体制でいくのはいかがでしょうかという私の考えです。

○委員長

ありがとうございます。委員の考えも、あとの方の論点15の本市における学校統合に係る考え方という部分で今までの話がでていますし、将来を見据えた構想としてこの辺りを含めながら検討して行ってほしいということ述べられたのかなと思います。ありがとうございました。

○委員

皆様がおっしゃられた通りだと思います。結論から言うと私も中学校は二校なのかなと思っています。今ありましたように、令和27年度でも寒河江市の中学生が1000人位いるという現状があります。そうすると、今陵南中と陵東中くらいの規模になるのかなというふうに思うところです。30クラスあるというのはどうなのかなと考えた時に難しい部分が出てくるし、今の子どもたちや、これからの教育を考えると、昔とは違っていろいろな面で個に配慮した部分も必要になってきているんじゃないかと。そう考えますと、二校のほうがまず現実的なのかなと考えます。一校というのも魅力的でいいなとも思ったんですが、そんなふうに今思っているところです。それにあわせて小学校も統合していくべきと考えているところです。

○委員長

ありがとうございます。

○委員

論点4の学区再編については、本来であれば分割しない方がいいんじゃないかと思いますが、どうみても通学とかコミュニティを考えて、なんでこっちの小学校なの？なんていうふうな思うところがあるのであれば、再編の際のいいチャンスかなと思います。

論点6については、当初は生徒数の減少が大きいんじゃないかというような思いもあって、一校もありだなと思っているんですが、予定の数を見ると人数が維持される予定だということであれば委員がおっしゃったように、理想的には二校なのかなと思います。ただ現実的に、陵東中も陵

南中にしても校舎は限界ですよ。ですから、いずれにしてもあと数年後には新校舎なり、大改築をしていただかないと、いま数年間の子どもたちが非常に可哀想だなと。そういうところが財政とも関わってくるんだらうなと思います。もしそういったことが難しいのであれば、思い切って一校ということも選択としてあるんだらうと思います。子どもたちは適応力があるんですよ。わたしたち大人、保護者辺りが心配を思うんです。ですから、今のような学校行事とか、集会のやり方とか教育活動を想定した中だと大変だと思うかもしれませんが、新たな工夫をしながらやっていたら出来ないこともないのかなと。わたしも結論が出ないところです。

○委員長

今の話の中で論点8も含めたご意見かと思います。やはり現実問題として改築ということも当然入れた中で中学校を考えるべきであるということかと思います。ありがとうございます。

○委員

委員の立場としては、生活感覚というところではコメントしづらいところもございます。先ほどの委員のお話と重なる部分がありますが、答申につながる部分だけが独立であるのではなくて、市の総合計画であったり、コミュニティをどう作っていくか、そこに深く関わっている内容だということを皆様お分かりかと思います。区割りを変えてしまったりすると公民館やコミュニティセンターの設置位置を変えていったり、そこを再編していくようなこともしていかなければならないだらう。つまり、学校がなくなったら、公民館やコミュニティセンターが地域の文化を支えていく、あるいは地域の人たちをまとめていくということになっていくと思いますので、となると、どうも学校の何をもって再編していくのかという話をしましたが、もう一つもっとメタな部分といいますか、市の総合計画の中の位置付けをしていかないと。例えばこちらから答申を出しても、それが覆されてしまうという可能性があるんじゃないかというのがありますので、今後の議論のすり合わせをしていかなければならないのではないかと思います。

○委員長

ありがとうございます。やはり市の方向性の中でどういう風にこれを位置付けしていくかということ念頭に置いておかないと、単なる意見に終わってしまうんじゃないかと。現実問題にならないんじゃないかという委員からのアドバイスかと思います。ありがとうございました。

○委員

まとめが出ているところで私の意見で申し訳ないんですけど。あり方検討委員会で、最初中学校数を何校にするかという話をしたり、小学校数を何校にするか、どういう区割りがいいかなんて話をしたりしました。今回の論点整理に参加させていただいて、どれも正論といいますか、大事な意見ばかりだなということで、現実的に委員からもお話があった市の発展計画でどういうふうを考えているのかとふと思ったところです。やはり現実的なのは、段階的な整備になってしまうのかなと。財政的な面を考えた時に、論点3の案1のところを話したんですけども、論点5では、できれば陵西学区の中には、小学校が小さくても学校があったほうが良いというふうなことも思っちゃってちょっと矛盾があったり。地域の住民の方がどう思っているのかが大事で、子ども

たちは意外と順応性があるので。例えば、中学校が一校になろうが、二校になろうがそれほど大きな違いはないかと思えます。やはり地域の方、市の財政当局がどの方向性を見ているのかでだいぶ変わってくるのかなと。ただ、私も最初は中学校を一校にするのがいいかと思ったんですが、現実的なことを考えると二校体制があつて段階的な整備になっていくのが現実的かなと考えたところでした。何はともあれ、答申を出すにあたっては、これまでの皆様の考えがぜひとも活かされるような答申にしていきたいと考えたところです。

○委員長

ありがとうございます。やはり論点4、5、6、7に関しては、先ほどの委員のおっしゃるようにならぬかに軍配をあげることができないというのが正直なところかなと思つています。そこで出てくるのが市のマスタープランなり、市の計画というものの中に統廃合をどう位置付けていけばいいのか、我々の意見が意見だけにならないような、噛み合うような方向性にもっていく必要があるだろうと。そうした時に、今の論点についてはやはり平等の平均で、最終的にお考えいただくしかないだろうと。ただ論点6だけが一校体制という意見からだんだん二校体制にシフトしてきているということも、我々の意見としてあるのかなと思つてます。

案1案2と順番性があるのか分かりませんが、そのへんをどのように文章併記すべきかこれから検討していきたいなと思つております。ありがとうございました。

○委員

論点6についてです。一校にすることについてですが、学校というのは学習がメインとなります。あとは子どもの成長・発達ということになるんですけども。学習メインと考えると、その他のリスクが大きすぎると私は思つています。私は大規模の小学校にも勤務しましたが、その時700人いました。最後の年は音楽室と理科室を潰して教室にしました。全学年4クラスです。どういう状況だったかという、体育館は朝昼晩、朝・中間休み・昼。そこしか遊べない。朝遊んだらどこにいるかという、教室にいるわけです。教室のスペースしかなくしている場所がない。雨の日なんか最悪なもので、いる場所がないという状況がありました。学級経営も大変だということ、生徒指導の面も大変だと。当然そうです。休み時間に広い場所で遊べるのが一カ所しかないんです。外で遊べれば別ですが。なかなか外に遊びに出る子どもたちが少ないということから考えると、どうしてもリスクがありすぎる。生徒指導の不登校、いじめがたくさん報告される中で、はたして中学校一校でいいのかというのは考える必要があると思つてます。

○委員長

リスクの観点からすると大きいのではないかというご意見かと思つてます。ありがとうございました。ここが一番とメインになる議論だったかなと思つてます。論点8以降に関しましては、今の絡みの中で、例えば築50年経っていて改築がきますよとか、論点15に関しては段階的、そして市の方向性、長期計画に基づいてやるべきですよということで絡みもあります。ここは両論併記でなくて、今まで出たものがそれぞれのところで書いてございます。

論点8から15まではフリートークにさせていただきたいと思つてます。この中でなにか付け足しとかご意見がございましたら出していただきたいです。最後に、ただ学校の数とか、学校教育

だけでなく、地域社会、寒河江市の将来に向けてどう解決すべきか。先ほど委員からありました助言もいただきながら最後の方に結びを持っていきたいなと思いますのでよろしくお願いいたしますと思います。

それでは論点8から15まで一括してご意見出していただきたいと思います。

○委員

先ほど委員から、中学校がもう限界ですよというお話がありましたが、小中学校の耐震化、冷暖房もつけていただいたり、トイレの全面様式化に改修していただいたという環境のなかで、まだまだ使えるんじゃないかと思ってたんですね。水道管の問題なんかもあって最初はどうかと思っていましたが、現状で水筒を持って学校に行くというスタイルが定着してしまっていて、当たり前のようになってきたので、もう苦がないんじゃないかなと思ってはいたんですが、具体的にもう限界なのかということをお伺いしたいのですが。

○委員長

委員から聞いたほうがよろしいのでしょうか。

○委員

トイレは新しくしていただいて良かったなと思うんです。いろんなところから水漏れがして、嵐なんかになると雨漏りもします。それから、陵東だけの話をさせていただくと、教育相談をしたいなんていう時にも適切な部屋がないんですよ。そういった意味で教育はどんどん更新されて、新しい教育を目指そうという側面になっているんですけども、それにハードが追い付いていない。もっとこういう施設・設備があったらなと思ったり。先ほど、特別教室がというお話もありましたが、体育館もですが、もう一つくらい欲しかったなと。そういったことを含めるともう少し教育環境を整備していただきたいというところです。

○委員長

陵東はいちばん古いんですけど、陵南はどうなんですか。

○委員

陵南も陵東とそれほど年代も変わりませんので、建物などは同じだと思います。ただ、エアコンを全教室、特別教室に入れてもらったり、トイレも改修していただいたりしているので、あと10年後位には使えませんかというのはもったいない気はします。ただ限界にきているというのも事実でその辺のジレンマといいますか、もったいないけど古いというところはあるかと思いますが、何とも言えないかなと思います。

○委員長

委員さん、というような現状だそうですがよろしいのでしょうか。ご意見お願いいたします。

○委員

この部分というのが、論点6に関連してくる部分でもあるかなと思っていて。本来であれば一校案か二校案が半々になってきたのかなという感じはするのですが、財政的な部分を含めて、本当は二校ほしいんだけども財政的にどうなのかと。あくまでここは在り方として、ここは答申を述べるだけであって財政の部分は組み入れないかたちで望ましい教育のあり方を考えるのであれば二校が望ましいんじゃないでしょうかという話をする場だとは思いますが。結局第2案の中では、今の学校をそのまま継続して維持をして使っていくという環境の中で、そこまで改修をしていただいたので第2案の中であと10年20年は使えるんじゃないのかなと思ったもので。二校案で今の施設を使うというかたちもありなのかなと思ったのですが、実際のところどうなのかと思って今伺いをしたところです。

○委員長

ありがとうございます。将来的に渡って限界がきているというのが現実だということだと思いますね。

その他、今のような質問を含めて結構ですのでご意見をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

通学に関しては統合したとしてもスクールバス等で対応していくという方向性ですね。あとここに出ていない問題としては、例えば学校給食の問題ですけども、統廃合しようが学校給食は今外部に委託、給食センターでしたか。特にその辺に関してはいかがですか。

○事務局（学校教育課長）

学校給食の現状を申しますと、小学校については自校給食、中学校については給食センターということになっております。ただ小学校について、自校給食ですけども、直営の学校と、調理師の補充はしていないということで、退職に応じて委託を進めているという状況でございます。ただ、将来的になりますけれども、学校のあり方なり、方向性が出た後で、今度は学校給食のあり方ということで方向性も決めなければならないなど事務局の方では考えています。なぜかといいますと中学校の給食を委託しているところがそろそろ設備的に限界がきているということで、この際中学校はセンター、小学校は自校でいいのかどうかというかも踏まえたかたちで検討を進める予定ではあります。まずは学校をどうするかが先決だということで、この次の段階で事務局の方では考えております。

○委員長

学校の答案のあり方を基にしながらということですね。

○委員

すみません何度も。通学についてというところがあります。先ほど一校にしたときのリスクが大きすぎるというのがここにもあります。考えただけでも恐ろしい。計画をする段階ですごく大変だろうと。雪が降った場合にどうなるのかと考えると一校にした場合の恐ろしさは計り知れない。ということは、学習に関わってきますので、通学については難しいなというふうに思ってい

ます。論点10の新しい教育の対応についてですが、昨年度からタブレットが一人一台入っているそうです。というような時にいろいろな問題が起きているという話を聞いています。指導方法が、今までは一斉指導のなかで一律に指導しようと、その方が指導しやすいので。そうしてきた経過があります。タブレットを導入すると、子どもたちは使いたがるし、タブレットの良さというのを大事にしていく。となると少し教えるという考え方を変えていかないとわたしは無理なのではないかと思っています。教えるとかいう発想ではなくて、案の最初の方にある主体的・協働的とありますが、そちらを推し進めない限り自分でどんどんやっていく、教員が教えるというキャパシティを越えている。教員よりも分かっている子がいていいわけです。そういう認め方をしていかなないと教員が子どもを縛っていくことにならないかが懸念されます。数年前にアクティブラーニングが導入されましたけれども、それもなかなか難しいものですので、現場でどれだけ行われているかというのは難しいところがあると思います。それにタブレットですので、なかなか現場の教師でというのは大変だろうなと思っています。英語の推進だとか、ICTの活用を推進はもっともなんですが、それを教員が全部するというのは無理だというふうに思っています。現場にいて見てきた人間からすると。頑張ってきましたけれど。となると人材の方と別な方から活用するというのを考えてほしい。タブレットのことを先生が子どもより分からない、それでもいいじゃないかとなっていくか、子どもも伸びていかないと、そういう意識と、もっと多様な人間が入っていくというふうな方向になるといいなと。教員に課せられないようになることを期待したいと思っています。論点11の生徒指導への対応についてですが、昨今コロナの状況でそちらの方がメインになっていますけど、校則についても問題になりました。中学校の校則が今現在どうなっているのかわたしは分かりません。けれどもわたしもデータをまとめる限りだと、すごく人権を無視している内容がありすぎて、それを平気でやる教員がいるわけです。というのをどこか主導で、こどもの人権を大切にするという視点での生活指導のあり方とか、学習指導のあり方とかというのを考えてあげないと子どもの成長発達についてはよりよく、果てしないというふうに思っています。もう一つ、やっぱり子どもが楽しい学校でないとしようがないと思いますので、楽しい学校、麴町中学校なり、というのが元々としてある中で、ぜひそういったところも参考にしながら進めていっていただければなと思います。

○委員長

ありがとうございます。寒河江市内の学校がこれからどのように変化していくか、それに伴って学校教育そのもののあり方も変わっていかなくてはならないし、特に先生方それぞれが変化を求めなくてはならないという貴重なご意見かと思えます。ありがとうございます。

他になければ、時間もだいぶ押し迫ってきていますので、市の方針に合わせた中で、学校統廃合も考えていくべきであるというご意見もありました。そんな中で、地域と学校、自治体と学校、これからどう結び付けながら考えていくべきか、委員から最後にご助言をいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

○委員

助言といいますか、コメントになるかと思いますが、論点9以降のところでありまして、論点13であったり、先ほどの論点15の部分であったりというのは、先ほどの議論と非常に重

なっているというところ。マスタープランのなかで、いわゆる学校教育の振興計画の一環を担う、あるいは学校の再編を担うということで計画をどう位置付けていくかということでしょう。それが今までのコミュニティの区割り自体を変えていく可能性があるということになると思います。おそらく公民館分館のほうも整理していく可能性が出てくるんだらうと思っていますので、再編といったところも併せてみていくことになるんだらうと。やはり学校だけではみられない部分があるというところ、そのベクトルの二論は根底にあると。そこは確認しながら議論していく必要があるというふうに思います。あと、やはり懸念として学校がなくなると活気がなくなるということであったり、少なからず否定はできないのではないかなど、事例を見ている中で感じます。小規模な学校のほうが地域との関係が密接にならざるを得ないといえますか、密接になるということがありまして、ですから学校行事であったりとか、草刈りなどの環境整備であったり、街頭の見守りをしてくれたり、地域の人が学校に関わっていくという部分が密であると思います。それがなくなった後にどうなるのか。通学が大変だと、若い家族・夫婦が便利な所に動いていくというのは各自治体でもみられる現象と考えております。そうすると通学手段の確保という面で、手引きには9割以上が1時間以内とありますが、そんな次元ではなく小学校の場合は数十分に収めるようにしていかなければならないと思います。そうすると、人が動いていってしまうということになってしまうので、そこはなんとかしないといけないと思います。そうすると小学校で広域に合併した場合には、学童保育の拡充、もしくは家に家族がいるにしても学童で預かれる仕組み、もしくは放課後子ども教室という枠で、要はバスで送り出す前に一時間とか子どもたちと遊ぶ時間を設けていくようにしておかないと、まっすぐ家に運んでいくということになってしまいます。家の近所に子どもがいないから統合されていくわけですので、放課後の子どもたちの交流の時間を確保する、広く統合を進めてきた他の自治体の事例をみているとそういうところがあるかと思っています。広くなっていきますと、以前はおじいちゃんおばあちゃんがいたからという理由ですぐに来てくれたらよかったけど、送迎、場所のことを考えると今度は自分が迎えに行けるかなとなると、学童を利用しようかなんてなると思います。子どもの数が右肩下がりに減っているのに学童の利用者数が右肩上がりになっているというのが県内の状況でもありますので、それは共働きだけではなくて、統合していく中で広域化していくなかで子どもを学校で預かってもらわなければならないと。おじいちゃんおばあちゃんが車でくるには歳をとりすぎて難しいなんてなった時に、学童で放課後の部分の対応を考えていかなければならないと思います。こういったことがあるなら仕組みづくりが必要になってくると思います。それとコミュニティのあり方と結びついているんじゃないかなと思います。

論点12のところ、部活動の地域移行を行うとあります。例えば部活動指導員の配置の状況は今どうなっていますか。各校一人はいるわけですね。どの自治体もそのレベルじゃないかなと。昨年の村山の状況を聞いておりましたけども。一人で部活の引率からなにかからできるわけではありませんので、必要な種目等をみってくれる複数の人数の確保ができるかという話になると思うんですが、おそらく予算がついても人が見つからないというのが最大の難しさになってくると思います。東京都なんかだとそれをマネジメントする会社があって、スポーツ系の大学院生とかを送るということをして、すると学校の教員も距離がでて余裕ができると。専門の指導する人たちがやってくれるということで、双方がWIN WINになるような形にはなっているようですが地方にいくと、人材の確保がなかなか難しいというのが現状かと思っています。ここは人材の確保を長期的に

見ていかなければいけないと思います。先生方にとっても負担がかかるだけではなくて、専門性を持っていない先生が部活の指導に付くというふうになってしまうと、子どもにとっても先生方にとっても負担になると思います。そういった意味でもコミュニティ・スクール、学校運営協議会に加えて地域学校協働活動を広げていく際に、どういう人材の方がいるのかをしっかりと把握して、長期的にご退職される予定の方々をおさえて、そういった方に指導をお願いする必要があると思います。いずれにせよ学区を再編しますと、そこに関わる人たちの幅が広がるんです。逆に言うとなんか顔が見えなくなるということがでてくると思いますので、そこをコミュニティ・スクールというのが考えるところですので、実動するエリアと、地域活動協働本部のスタッフを再編と併せつつまとめていかなければならないというようになるかだと思います。いろいろと同時に動いていかなければならないことになるかと思いますが、学校とその地域の活動は表裏一体になるところが大きいだろうというところを最後にコメントとして述べさせていただきます。

○委員長

ありがとうございます。今日お聞きしたご意見をもとに、これから事務局さんのほうにお手数をおかけするわけですが、答申文の原案作成になってくるかだと思います。今日出していただいた意見を、網羅とまではいかないですができるだけ含めて答申文を作ると。そして、それがその根底には寒河江市、学校のあり方、何のため、誰のための学校再編なのかということに基づきながら、文章化していかなければならないと考えています。

ほんとうに貴重なご意見をお聞きしたことをお礼申し上げたいと思いますが、私の進め方の悪さから時間がうまく進まなかったことをお詫び申し上げます。

これで座長の任を下ろさせていただきます。これからの進め方について事務局さんのほうからよろしくお願ひしたいと思います。ご協力ありがとうございました。